

【ウイーン国立歌劇場でボディパーカッション教育教材紹介とパフォーマンス演奏】

- 2018年8月19日、ウイーン国立歌劇場において、新たな音楽教育教材として披露するためにボディパーカッション教育の発表を行った。同行したメンバーは、大学教員、小・中学校音楽教師、幼児教育関係者（園長）、ピアノ講師等である。今回の研究演奏発表は、2017年8月に行った、ウイーン国立歌劇場・オーストリア国立福祉施設でのワークショップが好評を博し、そのことが契機で今回の発表を行うことになった。



オーストリア・ウィーン国立歌劇場 ボディパーカッション作品演奏



2018.8ボディパ演奏ウィーン国立歌劇場

【ウイーン国立歌劇場でボディパーカッション教育教材紹介とパフォーマンス演奏】

- 2018年8月19日、ウイーン国立歌劇場において、新たな音楽教育教材として披露するためにボディパーカッション教育の発表を行った。同行したメンバーは、大学教員、小・中学校音楽教師、幼児教育関係者（園長）、ピアノ講師等である。今回の研究演奏発表は、2017年8月に行った、ウイーン国立歌劇場・オーストリア国立福祉施設でのワークショップが好評を博し、そのことが契機で今回の発表を行うことになった。



ウイーン国立音楽大学教授シュミット氏とステージ控室で

- ウィーンは「世界の音楽の都」と呼ばれ、またウィーン市内に国際連合ウィーン事務局（United Nations Office at Vienna、UNOV）設置されている。今後、国連ウィーン事務局において「世界100っか国の子ども達へボディーパーカッション教育の楽しさを」をテーマに演奏発表や研究報告することを視野に入れている。（記録映像あり）



【ウイーン国立歌劇場でボディパーカッション教育教材紹介とパフォーマンス演奏】

- ウイーン国立歌劇場の観客は、ウイーン及びオーストリア在住の音楽教育関係者を中心に集まり、日本の吹奏楽選抜メンバーと共に演奏披露を行った。演奏内容は、平成17年度小学校音楽科教科書に採用された「花火」（作曲：山田俊之）、平成24年度文部科学省編集の特別支援教育用音楽科教科書に採用された「手拍子の花束」（作曲：山田俊之）、音楽之友社より出版した書籍より「キッズウエーブ」（作曲：山田俊之）の3曲を編曲して披露し、好評を博した。



【オーストリア国立高齢者福祉施設でのボランティア・ワークショップ】

- ・ 2018年8月17日、ウィーン市内のオーストリア国立高齢者福祉施設でボディパーカッションを取り入れた演奏披露や、参加者全員と一緒に演奏できるボランティア・ワークショップを行う。
- ・ 具体的には、高齢者福祉レクリエーションを中心とした「ボディパーカッション&リズム活動プログラムである」（教材：「楽しいボディパーカッション①～③」（2002～2004年、山田俊之著、音楽之友社）を使用した。



【オーストリア国立高齢者福祉施設でのボランティア・ワークショップ】

- ・ 今回のボランティア訪問ワークショップは、昨年度に引き続きの施設訪問であったが、「身体を使って、音楽的に活動すること」の大切さを改めて認識し、「言葉は通じなくても、音楽とリズム活動は国境を越えて楽しめる！」活動であった。今回の経験は、2019年9月に講座依頼を受けている、「第19回日本音楽療法学会学術大会全国大会」（大阪国際会議場）で研究発表を行う予定である。（記録映像あり）

